



➡ 3年生 | 「チョウを育てよう・こん虫を調べよう」

昆虫を調べる視点は、「あし」と「口」!

1. 生き物は「形とくらし」を学習

昆虫を含め、生き物の学習では、子どもたちに
生き物の体のつくり(形)は、生きていく環境(くらし)にうまく適応するようにできている

という科学的な見方・考え方を身につけさせたい。

昆虫は「あしが6本」という学習にとどまらず、獲物を捕らえたり、すんでいる場所に適したつくりとはたらきをもっていたりすることを学ばせたい。また、昆虫の体は「頭・胸・腹の3つに分かれている」というだけでなく、頭や胸の部分が生きていくうえでどのように都合のよいつくりやはたらきをもっているかということも学ばせたい。

2. 幼虫はあし・体の色を観察しよう

チョウの幼虫の観察では、ぜひあしを観察させたい。下のようにあしを隠した図を提示し、あしの数や付いている節、形に着目させて観察させる。



あしは全部で16本あるが、前と後ろでは形が全く違う。前の6本はとがったツメあしで、葉をつかむのに便利な形になっている。後ろの10本は吸盤のあるイボあしで、葉に吸い付いてとまるのに便利な形になっている。まさにすんでいる場所にうまく適応した形になっているのである。

また、身を守るための「体の色」にも着目させたい。モンシロチョウの幼虫が、キャベツの葉と同じ緑色をしていて、保護色によって身を守っていることはよく知られている。おもしろいのはアゲハである。これも緑色の葉の上にすんでいるのに、1~4齢までは、体の色は白と黒の混じった模様である。

けっこう目立つ。なぜか?

身を守っていないのか?

実はこれは鳥の糞に擬態しているのである。



▲4 齢幼虫

3. 何を食べているか、どんな口をしているか

昆虫の頭は、食べ物を得るための感覚・捕食器官ということが重要である。特に口の形は、食べ物を得るのに合った形をしていることに気づかせたい。

チョウの花の蜜を吸うのに便利なストローのような口、クワガタの樹液をなめるのに便利な



▲チョウの口



▲クワガタの口

ブラシのような口、トンボやカマキリの他の虫を食べるのに便利なキバのような口など、口の形と食べ物を関連付けて観察させる。

4. どこにすんで、どんなあしをしているか

成虫のあしの形も、すみかやくらしに都合のよい形をしている。クワガタなどの樹木にすむ昆虫は、木に登りやすいようにカギ爪のあるあしをもつ。水の中にすむゲンゴロウの後ろあしは、水をかくのに都合のよい毛がたく

さん付いている。土の中にすむケラやセミの幼虫の前あしは、



土を掘るシャベルのような形をしている。

このように、すみか、食べ物、身の守り方の観点で、いろいろな昆虫の口やあしの形を調べるのがおもしろい!!